

昨年 11 月から始まったコロナ感染者の増加も年末、年始にピークに減少傾向となって来ています。これに伴い種々の規制緩和が発表されて来ており、来月には医療分野など特定場所を除くマスク着用すらも個人判断と以前の生活形態に戻りつつあります。とは言え、今なお新規感染者は発生しているわけで用心に越したことはないでしょう。

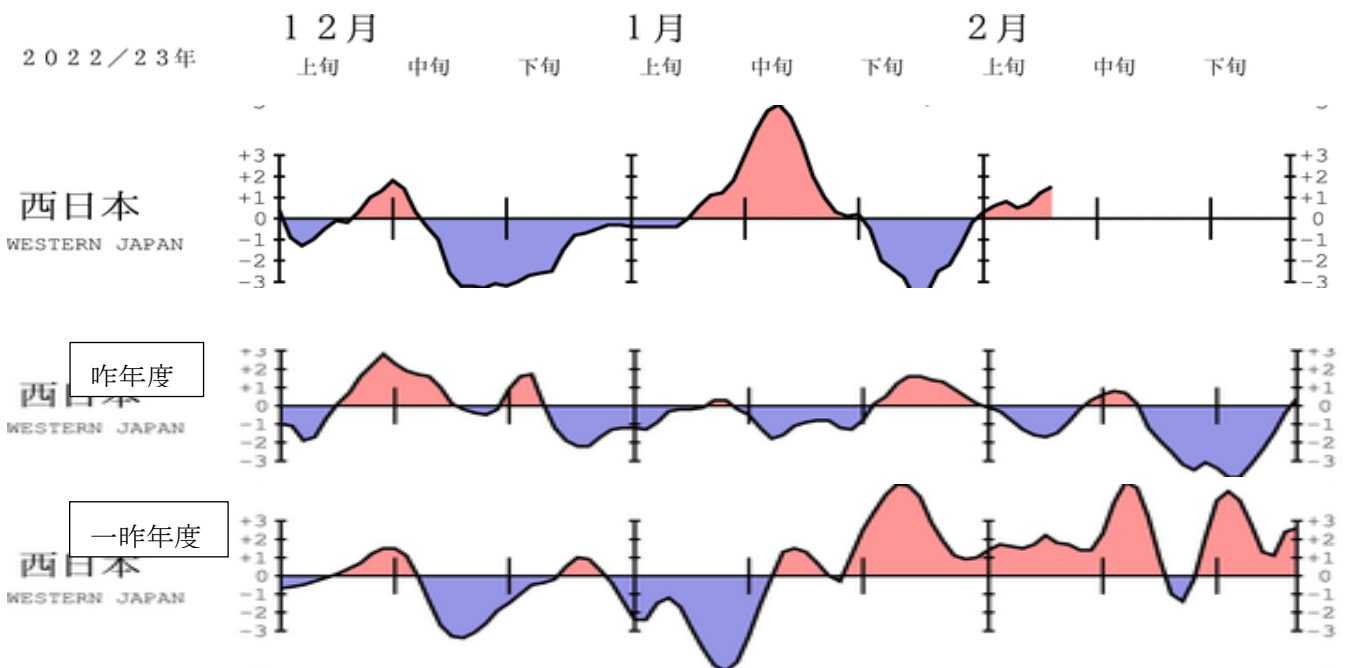
さて、本題の「サクラだより」、今年も、1 月末に第 1 報を発行、情報の交換の場として今後も続けて行く方針です。皆さまのご協力よろしく。

本報では例によってサクラの開花等に大きく影響すると考えられるこれまでの気温の経緯・前年度の比較、気象庁が最近発表した今後の気象予報（短期）。及び気象会社が発表して来ている今年の「ソメイヨシノ」の開花・満開日の最新の予想、既に開花が始まっている沖縄・奄美でのヒカンザクラの開花情報、さらに私自身が続けてきている近所歩きで観察されたサクラ類の状況等々記述しておこうとおもっています。

1. 今年の冬季の気温の経過。

1-1. 西日本の気温推移（平年差・昨年・一昨年度と比較・新平年値に準拠・気象庁発表抜粋）

冬季・・・12 月から最近までの西日本地区（近畿・中国・四国・九州）の気温の経緯は下図。



*気象会社などはサクラの休眠打破に影響するのは 11 月～1 月の気温であるとし、開花予報などでも論じて来ていますが、疑問。ソメイヨシノは以前には 10 月末には落葉、11 月に裸木状になっていましたが、地球温暖化の所為か昨年などは 11 月どころか 12 月中頃にやっと裸木状になるなど生態サイクルも変わって来ているように思います。ソメイヨシノの「休眠打破」の条件などに関してははなぞも多いのですが、少なくとも観察・観測を始めた 2020 年以降の 3 年間は冬季気温が低いほど「休眠打破」は早期になるという傾向は認められました。そこで、今回も 12 月～2 月の西日本の気温経緯を挙げておきます。

*上の平年値を基準とする寒暖の経緯図では昨年度は「ラニーニャ」の影響を強く受け、どちらかと言えば平年並みかやや寒冷な冬季となりましたが第 1 報で記載のように 12 月 7 日にこの「ラニーニャ」現

象が終わりに近く、初春には逆に「エルニーニョ」に移行の見込みとの特別発表がなされ、12月末に発表された向こう1ヶ月及び3ヶ月予報ではこの冬の気象気温も西日本地域では平年並みかやや暖かくなるとの変更が出されてきています。

*予報はともかく、今年の冬季は今後の見込みを含めて寒暖の振れの幅が大きな年となって来ています。気温経過図で、月単位で見れば平均値は平年並みとはなりそうですが、はたして「休眠打破」はどうなるでしょう。

1-2. 大阪の気温に関して

ご承知のように、2021年5月19日以降、平年値は以前の1981～2010年の30年間の平均値から、1991～2020年の30年間の平均値に改められ、現在はこの値を使って来ています。この間の差は0.3～0.4℃上昇、たいしたことはないと思われがちですが、実情はどうでしょうか。

大阪管区気象台の「年平均気温」データーをもとに、1980年代(1981～1990)、2010年代(2011～2020)及び直近の2018～2022年の5年間の値を計算して見ました。

この結果は1980年代、年平均気温16.2℃であったのに対し、2010年代は17.2℃、さらに直近5年間の値は17.5℃、急速に温暖化が進んで来ていることがお分かりになると思います。因みに2010年代の大阪の値は、1980年代の宮崎の気温に相当するとのこと。地球温暖化は待たなしの問題ですが、ウクライナ紛争、これに関連しての経済活動・エネルギー問題などで「パリ協定」は棚上げ、今後どうなるのでしょうか・・・。

1-3. 近畿地区の向こう3ヶ月間の気象予報(気象庁・1月26日発表・変更なし)

向こう3か月の気温は、ほぼ平年並ですが、4月は、暖かい空気に覆われやすいため、平年並か高いでしょう。向こう3か月の降水量は、低気圧や前線の影響を受けにくいとため、太平洋側では平年並か少ないでしょう。近畿太平洋側：気温、低30%、並み30%、高40%、降水量、少40%、並み40%、多20%

なお、大阪管区気象台は、毎週更新される形で、近畿地方の向こう1ヶ月間の気象予報を発表して来ています。誰でも見る事が可能ですが参考の為2月9日に発表された最新の予報を掲載しておきます。

<特に注意を要する事項>

期間のはじめは、気温の変動が大きいでしょう。

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

- ・近畿日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
- ・近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。
- ・週別の予報、

<確率>

期間	要素	地域	低・少	平均並	高・多%
1か月	気温	近畿地方	40	40	20 (2月11日～3月13日)
1か月	降水量	近畿地方	40	30	30
1週目	気温	近畿地方	20	50	30 (2月11日～2月17日)

2 週目 気温 近畿地方 30 50 20 (2 月 18 日～2 月 24 日)
 3～4 週目 気温 近畿地方 40 40 20 (2 月 25 日～3 月 10 日)
 ・ 予報は予報ですが、観測精度が上がって来ているので最近は良くあたるのですが・・・。

2. 今年の「サクラ (ソメイヨシノ)」の開花予報—2

毎年この季節になると、所謂「気象予報会社」各社から、本年度の「ソメイヨシノ」の開花・満開の予報が出されて来ます。前報で日本気象協会の第 1 回目の開花予報を掲載しましたが、2 月 9 日に日本気象 (株) より、第 3 報が出されて来ています。専門家は今年の「ソメイヨシノ」の開花・満開日等をどう見ているのでしょうか？参考の為、現時点の近畿各地の開花と満開の予想日を抜粋掲載しておきます。

*「近畿地方」開花は、平年並み

気温は 10 月は平年並み、11 月は平年よりかなり高め、12 月は平年より低め、1 月は平年より高めの気温でした。2 月は平年より高め、3 月は平年並みの気温が予想されるため、開花は、平年並み。

*現時点での近畿各地の開花・満開日の予想。(赤字は今回前回より変わった期日です。)

大阪	開花	3 月 28 日	満開	4 月 4 日
京都		3 月 27 日		4 月 3 日
神戸		3 月 29 日		4 月 6 日
奈良		3 月 28 日		4 月 4 日
和歌山		3 月 27 日		4 月 3 日
彦根		4 月 1 日		4 月 7 日

3. 本年度のサクラの開花情報 (ヒカンザクラ : 気象庁発表)

第 1 報では、奄美沖縄地区での「開花基準となる標準木」となるヒカンザクラの開花日について、平年、昨年と比較して報告した。先報では開花の報告できなかった、石垣島に関しても 2 月 3 日に開花したとの報告があった。また、石垣島を除く 3 地区では既に満開の報告もはいつているので平年値、昨年及び開花から満開日までの日数を報告しておきます。

開花日

地域	新平年値	昨年	今年
名瀬 (奄美)	1 月 20 日	1 月 18 日	1 月 20 日
沖 縄	1 月 16 日	1 月 11 日	1 月 7 日
宮古島	1 月 17 日	1 月 16 日	1 月 19 日
石垣島	1 月 18 日	1 月 27 日	2 月 3 日

満開日

地域	新平年値	昨年	今年	開花～満開日数		
				平年	昨年	今年
名瀬 (奄美)	1 月 29 日	1 月 31 日	2 月 1 日	9 日	13 日	12 日
沖 縄	1 月 29 日	2 月 1 日	1 月 30 日	14 日	21 日	24 日
宮古島	2 月 7 日	2 月 8 日	2 月 3 日	21 日	22 日	20 日
石垣島	2 月 10 日	2 月 22 日		23 日	26 日	

* 石垣島の満開日は未だ発表ありません。

＊古い話になって恐縮ですが2006, 7年の2月中旬ごろに高等科の修学旅行で奄美大島を訪れた際、地元のガイドから「ヒカンザクラは本州のソメイヨシノとは違い、北から南へ、山上から麓に向かって開花する」と聞いた。また、実際に山上の植物園（金作原）では満開に近い開花が見られたが、麓はチラホラ咲きであったという記憶が残っている。多分花芽の休眠打破の時期が開花に影響しているものと思われる。現状は？沖縄と奄美は完全に逆転、沖縄の開花が年々早くなって来ているように思えるし、南へ行くほど開花から満開日間の日数が大きくなってきている様に思われます。表には出てないが、宮古島では2019年、2020年、石垣島では2020年には満開には至らなかったという記録があります。今年、石垣島では平年より2週間も遅い開花、果たして満開は記録されるのでしょうか？

・上記のヒカンザクラの開花は決して他山の石などとは言っておれません。本州の「ソメイヨシノ」の開花や満開日も南から北への「サクラ前線」は消滅？・・・「地球温暖化」の影響は否定出来ないのでは。

＊ 「ヒカンザクラ」は奄美・沖縄地区だけでなく、本州でも暖地であれば生育が可能で関東以西では植栽されています。花が下向きに咲き、平開しないので地味。大きな公園や植物園などでは植栽されますが、町中の小公園、個人の庭園などでの植栽は希です。

ただ、私の住居附近では、既報のように、芦屋川河岸の公園に若木ですが5本ほど植栽されていますので観測の対象として来ています。

「ヒカンザクラ（別名の寒緋桜が使われる場合が多い）」は亜熱帯域・台湾などが原産ですので、休眠打破？の温度域も高く、本州でも秋季には目覚めているようです。従って、開花は冬季の気温次第、本州の「ヤマザクラ群」とは異なり、冬季気温の高いほど開花も早い様です。

すこし、距離がありますが日々の近所歩きの足を延ばし冬芽の状況の観察に出かけました。2月7日、右の画像のように花芽が少し大きくなり先の方が変色したかなと言う状況、開花は2月下旬以降かなと思っています。



4. カワズザクラ（河津桜）

前述の「ヒカンザクラ」を母種とする本種も、本州では最も早く開花する桜として知られています。原木は伊豆半島・河津町にあり、この附近が特に有名で、毎年、河津町観光課主催の「桜祭り」が開かれて来ています。この地域の情報を調べてみますと、本年2023年の「河津さくら祭り」は3年ぶりに行動制限のない状態で2月1日~28日の間開催されると報じられています。

ただし、本年度は例年より開花が遅れているようで、最新情報では2月11日現在、毎年開花が一番早い河津桜の原木が2分咲き、主会場となる河津川沿いはちらほらから1分咲き、今年の河津桜は2/15に2分咲き、2/22ごろに7分咲きとなる見込み、見頃は2月末から3月上旬と発表されています。

＊河津桜は早咲きで紅色の美しい桜なので、最近では近畿圏でも各地に植栽されるようになって来ています。関西では、京都の淀の河岸緑地の並木200本が有名ですが、私の散策コースの芦屋市・東山公園にも町内会の人々が植栽・管理している場所があり、観察地に決めて観察場所に決め観てきています。

＊最近この公園には、右のような看板が取り付けられました。2020年の植栽ですので、3年目、胸高直径5, 6 cm、樹高も3～4 mの若木です。この公園には以前にも植栽されたと思われる個体が10数本ありますが、その内の直径20 cmほど、樹高6 mほどの個体を標準木として2020年以降に観測を行って来ています。

2月11日現在、同公園の新規の植栽の内南斜面に植えられてた1本で3輪ほどの開花、2本で蕾がみられましたが、他の若木は蕾

がのぞくという程度でした。ただ、標準木はよりは昨年同様早くに開花するのではないかと思います。

若木の開花間近の蕾（右）と

標準木の蕾の覗いた冬芽の様子（左）を添付しておきます。



5. サクラに関する et cetera

6-1. 神戸気象台の「サクラ開花基準の標本木」の変更発表

ご承知のように、各都道府県を所轄する気象台では気象観測するだけでなく植物や動物の生き様を「生物季節観測」とし観測し公表してきました。従来は各気象台がその地に応じて、観測項目を決め観測を行って来ていましたが、2021年からは、白梅、桜、ススキの開花など6種9項目に絞って観測して行くと決定されました。

幸い、本州各都府県と北海道3ヶ所での「ソメイヨシノ」については従来通り、従来からの標準木について開花日・満開日の観測が続けて行くこととなりました。この観測用の標準木は当初は殆どの地域で各気象台敷地内の個体選ばれていたようですが、その後庁舎や観測設備の拡張などで、近くの庭園などの「ソメイヨシノ」への観測に切り替えられて来ています。近畿圏でも京都、奈良が最近観測用の標準木が変更されているますが、2月1日に神戸地方気象台が本年度から標準木を変えるとのニュースが流れました。興味ある記述なのでニュース・ソースの「神戸新聞」の記事を転記しておきます。

・神戸地方気象台は1日、神戸のサクラ（ソメイヨシノ）の開花や満開の基準となる「標本木」を、老木化のため21年ぶりに変更した。

市立王子動物園内にある従来の樹齢70年以上の木から、同じ園内の樹齢約35～40年の木に若返りを図った。若返りにより、今春から開花の発表がやや早まる可能性もあるという。



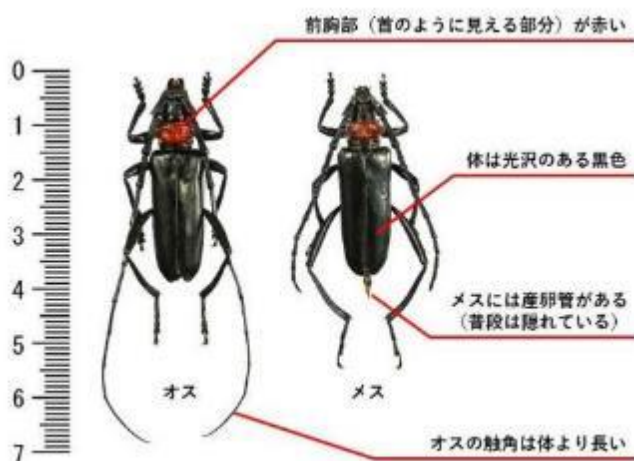
・神戸の気象台はかつて現在地と別の神戸市中央区中山手通7に庁舎があり、敷地内の木を標本木としていた。だが1995年の阪神・淡路大震災で庁舎の一部が損壊。99年に現在の神戸防災合同庁舎に移転した。標本木も合同庁舎敷地の木に変更を検討したが、海沿いで潮風に当たり生育が悪かったため、旧庁舎の木で観察を継続。旧庁舎の取り壊しに伴い2002年1月、王子動物園内の木に変えた。今回の変更はそれ以来となる。新しい標本木は、園内に3本ある「副標本木」の1本で、従来の標本木と開花時期が近いことから選んだという。

・近年、神戸の開花発表は京都や大阪などより遅れることが多かった。21年は京都より8日、大阪より5日遅い3月24日。22年は大阪より2日遅い3月25日だった。老木化に伴い、木の上で花が咲きにくくなっていたといい、同気象台の技術専門官は「変更に伴い、開花がやや早まる可能性がある」と話したとの記事です。

6-2. サクラの木を枯らす外来生物

これも新聞記事からの抜粋・毎日新聞の2月9日、兵庫県地方版

「クビアカツヤカミキリ」中国大陸や韓国などアジア東部に広く分布する体長3cmほどのカミキリ虫の仲間、日本には生息していなかったが、2012年に愛知県で初めて見つかりその後わずか10年余りで、関東、近畿周辺に分布を広げてきている。この虫がいて何が問題なのかですが、その幼虫がサクラ、ウメ、ももなどのバラ科植物の樹木の内部で成長、樹木を枯らす被害が出始めているからで、2018年に「特定外来生物」の指定を受けている。兵庫県内でも昨年、明石市、神戸市、芦屋市で生息が確認されたとのこと。写真のような成虫、もしくはサクラの樹の幹フラス（フン混じりの木葛）を見つけたら住まいの行政窓口知らせたいとの記事が掲載されました。



クビアカツヤカミキリ成虫の特徴

昨年、既に大阪・狭山市で「ソメイヨシノ」の幹から大量のフラスが見られたとことで写真も掲載されていましたが略。

6-3. 「ソメイヨシノ」の切り枝・加温テスト

今年も、2020年以降続けてきている首記のテストを始めました。テスト法などは例年と同じですので詳細は2020年度の「サクラだより」（科のHP「皆の広場」に掲載）を参照下さい。

切り枝サンプルは、公園の樹の枝を切るのは憚れますので、今年度個人の観察木に選定した阪急の線路北側法面上の道路沿い並木、「A・剪定なし」区分の樹から、2月6日、2月11日に切り枝サンプリングしてテストを始めました。早ければ2月末には「休眠打破」の有無、大体の休眠打破日が推定できると思います。

以上